

日本と世界の文化・情報

【1】日本人の名前

- 日本人の名前は、英語圏の名前とは違っています。family name を先に、given name を後に言います。また、一般的には、middle name がありません。小学校に入ると、教室など公の場では、教師が生徒を呼ぶときも、また、生徒同士でも、「加藤くん」「木村さん」のようにfamily nameが使われますが、そのような慣習についても練習を通して学びます。
- L1では日本人の名前は「かとう」などひらがなで、外国人の名前は「バード」などかたかなで書かれています。日本語には英語と違って複数の文字体系がある点を理解させ、文字にも関心を持たせます。（*「かとう」など漢字で書かれるものも、生徒がまだ漢字を習っていないこの段階では、ひらがなで表記しています。）
- 「マイク バード」「ナンシー バード」のように、外国人の名前は、日本語の音に当てはめて発音されます。外国語と日本語の音とリズムを生徒に実感させます。日本式に発音された外国人の名前を聞き取れるようにします。

【2】世界の国々・人々

日本語を習い始めたばかりの生徒は、L1のレベルでは単純な名詞文を覚えただけで、まだ、複雑な内容を語ることはできません。しかし、同時に、10代の生徒はさまざまな知識を求めています。日本語の学習と日本文化や日本事情、世界のさまざまな事柄への関心を大切にして、学習意欲を高めます。

世界の国々

- 国名を聞かせて、クイズのように当てさせながら、紹介していても楽しいでしょう。練習用にランダムに見せられるよう、各国の旗のカードを用意しておく便利です。
- 日本はどこに位置するのか、自分の国からどのぐらい離れているのか、国土の広さはどのぐらいか、テキストの地図上で確認します。地球儀も用意できると、なお興味深いでしょう。
- 国名を学習したら、人口、面積などから、どの国かを当てさせるクイズも、中学生に向きます。桁の多い数の日本語での読み方を学習していない段階ですので、人口や面積はカードや表に書いて見せるだけで、生徒に「にほんです」「カナダです」のような発話をさせます。

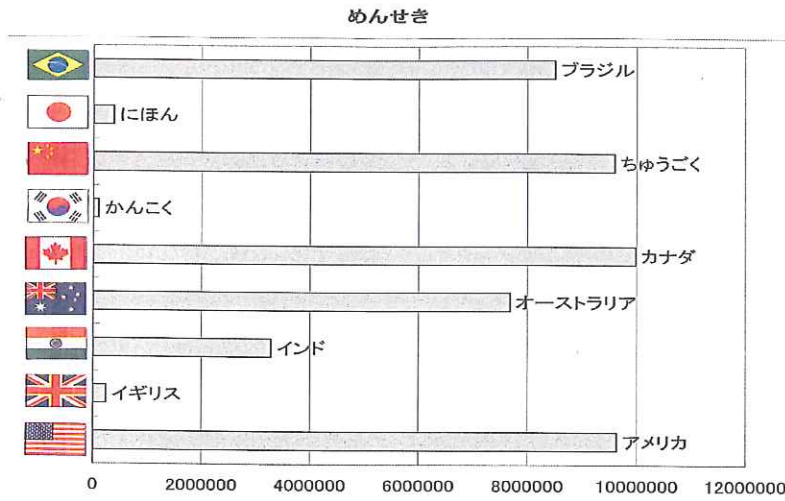
例) T(例えば、面積を記したカードを見せて、どの国が当てさせる)

S: にほんです。 T: はい、にほんです。

S: ちゅうごくです。 T: いいえ、ちゅうごくではありません。

S: ……カナダです。 T: はい、カナダです。

また、下記のようなグラフにまとめることもできます。



世界の人々

■民族衣装を着た人々のイラスト、また、その背景におかれた旗、名所旧跡などのイラストや写真を見て、「～じんです」という答え方で、国籍を当てるクイズができます。

例) T(クイズカードを見せる)

- S: にほんじんです。 T: はい、にほんじんです。
- S: ちゅうごくじんです。 T: いいえ、ちゅうごくじんではありません。
- S: ……インドじんです。 T: はい、インドじんです。



⇒ 付録「世界の事典」(国旗・名所など) 参照

【3】 おじぎの習慣

- 日本の一般的なあいさつは「おじぎ」です。初対面のあいさつや自己紹介の場面で、日本語の表現とともに、上体を前に傾けて頭を下げるおじぎの仕方をご紹介します。
- 世界のあいさつの身振りはさまざまです。生徒自身の国やその他のいろいろな国のあいさつについても、調べてみます。